

# ともに励まん



北海道旭川<sup>えいりょう</sup>永嶺高等学校3年次だより 第20号 (通巻115号)

2019, 9, 6 (金)

## 気遣いは 仁

期末考査に向けて、毎日放課後、各教室で真剣に勉強する姿が多かったです。このあと考査明けから秋期講習が始まります。考査前の、勉強に向かう姿勢を、講習を受けるものも受けないものも、継続させてほしいと思います。当たり前のことですが、放課後や休み時間、バカ騒ぎや遊びに興じない。真剣に勉強をする人に気遣いをする。それだけでも立派な「応援」です。お互いの進路の実現をお互いに励まし合う、そんな生活にシフトしてほしい。

互いを尊重し、博く愛することを「仁」という。まさに本校の校訓です。



## 胆振東部地震1年

またもや豪雨災害に見舞われました。佐賀県など、九州北部です。この数年、「線状降水帯」の発生が続き、広島、関東、岡山、九州北部など、幾度も川の氾濫、土砂崩れなどの被害に見舞われています。

昨年9月6日に起きた胆振東部地震から丸1年になりました。見たこともないようなあの山々の地滑りの爪痕は、1年経っても変わらないようです。新聞にはその後の人々の暮らしを追った記事が連載されていました。

その中で、神社や寺の復興が進まないという記事が気になりました。寺社は、憲法で言う「政教分離」の原則によって、国は復興の補助ができないのだそう。だから、現地の氏神も寺も、氏子や檀家の寄付によって再建するしかない。これが実に大変だということです。葬式も法要もできない寺の住職の苦悩が書かれていました。

みなさんも、全道ブラックアウトという未曾有の経験をし、信号が止まり学校が2日も臨休になり、期末考査も延期になるという経験をしたわけですが、これからも、いつ、どこで、どのような災害に遭うかはわかりません。わが家は胆振東部地震の前の日の台風21号で屋根が剥がれましたが、大地震の被災地の方々はいまなお不自由な生活を余儀なくされています。できるだけ早く復興されることを願うばかりです。また、8年経ってなお故郷に帰還できない、東日本大震災の被災地の方々にも思いを致すことが大切です。

これから、台風シーズン本番。異常気象といわれ、どんな災害の形がわれわれをおそってくるか分かりません。気をつけましょう。

## 外山滋比古に学ぶ

「〇〇を持続させるためには、自分のスタイル、「<sup>かた</sup>型」を持つことが大切です。型とは、怠け心が頭をもたげても崩れないスタイルです。」

こう書いておられるのは、英文学者で御年90歳を超えてなお旺盛に著作を物されている外山滋比古先生です。先生は、かの関東大震災の年のお生まれです。以前にも紹介したと思いますが、もっとも東大生に読まれていると評判になったロングセラー『思考の整理学』の著者です。

外山先生は英文学者なのに、むしろ日本語の大切さを説いてこられました。そうしたことから、ボクは外山先生の著作が好きでずいぶん読んできました。文体も大変わかりやすくなじみやすいし、「なるほど!」と思うような名言がちりばめられているのです。もう少し紹介しましょう。

「健康管理、金銭管理は言うに及ばず、炊事、洗濯、掃除も自分でできなくてははいけません。」

外山先生には年老いた奥様がいらっしゃるが、体調が不良なので、ほぼ三度の食事の支度も後片付けも先生がされているという。90歳を超えてなお、この心構え、生活力です。これから家を出て進学、就職しようという諸君は、はたして健康管理、金銭管理、炊事、洗濯、掃除、すべてやりきれますか?

「『知的生活』、知的とは『知識』の積み重ねではない。自分の頭で『考える』ことこそ、人生を変える力だ。」

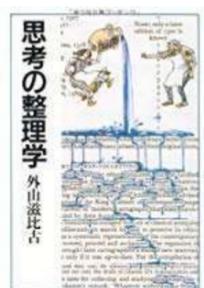
いいでしょう? 「自分の頭で考える」。親がかりの諸君にいま最も必要な事かも知れません。

「Habit is second nature. 習慣は第二の天性である。」

何事も続けていると習慣になる。習慣は、生まれつきの天性に近い力を持つ、というのです。「習い、性となる」ともいいますね。良いことはやり続けることによって、習慣にしてしまうといいんですね。外山先生はこうも言います。

「少し高等な教育を受けると、知識をありがたがって、生活を小バカにします。知識さえあれば人間は進歩するという古い思想に今なおとらわれています。」

みなさんの生活の中に、これは習慣化した、ちょっと誇れるもの、ということはありませんか?



## いよいよセンター出願

いよいよセンター試験の願書を書くことになりました。センター試験の願書は、一括高校から出します。進学の出願手続きで、高校が出してくれるのはセンターと指定校推薦の願書のみです。

願書は細かい部分までミス無く仕上げることが必要です。○を付けるとか、カタカナは小さなカタカナは使わないとか、修正液は使わないとか、科目選択を間違えないとか。受験料の振り込みも、金融機関の営業時間が限られているとか、ATMやコンビニ振込はできないとか、うっかりできないことがたくさん。もちろん締切は厳守です。

## 書いてみる6 転勤

将来、どんな職業に就いていきたいか。「本気で書こう！志望理由書」の記事で書きました。

近頃の若者は、「転勤」のない企業や官公庁を志望する傾向が強いのだとか。また、大企業でも、転勤のない職員としての採用も、制度として取り入れ始めているのだとか。



ボクは学生の頃、どうせなら全国各地を転勤して歩き、いろんな土地に住んでみたいという思いも持っていました。いまならテレビの「ケンミンショー」の東京一郎のように。そのためには、全国に支社のある、たとえば保険会社なんかも考えました。実際には、北海道の教員採用試験の他には、中国との貿易会社（小さいけれど・・・なんとなくこれから中国は発展するのではないかと思っていたので）を受験したのでした。当時はまだ中国に旅行するというのも制約が多く、北京の大路を人民服を着たたくさんの自転車があふれる光景でした。（ですから、ほとんど自転車なんて見かけない小樽から、自転車だらけの旭川に移ってきたとき、「わあ、中国みたい」と思ったものでした。）わずか三、四十年での中国のこの大変貌は、きっとむかしの日本が戦後から高度成長期に体験したものと様なのかも知れません。

若いうちにはぜひいろんな所に行って見聞を広めてほしい。行ったことのないような、知らない町にあえて住んでみよう。知らない土地で知らない人と出会い、つながりを作っていく。なんと素晴らしいことではないか。若いうちには大きな夢や志を持つべきだ。若いうちから小さく固まっていたら、人として成長できません。アタマもカラダもココロも充分使いこなそう、働かせよう。若いうちに使った脳や心や肉体はそれを覚えていて、またそれに近い働きをしてくれることがあるかもしれない。しかし、そういう体験のない人、もしくは使わないままこわばってしまった頭や心や体は、年を取ってから柔軟に働いてくれることはまず、ないはず。そう思います。年寄りのアドバイスはとりあえず聞いておこう！

**三浦綾子文学館館長談話**

が4日（水）朝日新聞に載っていました。三浦文学は「排除」される側の人々を丁寧に描く「寛容」の文学だと。代表作としてやはり『氷点』『塩狩峠』『泥流地帯』が挙げられていました。

## 半旗

8月29日、校舎前の掲揚塔の三つの旗は、そろって「半旗」でした。知ってる？「半旗」って。

「弔意を表すために、旗を半分ないしは3分の1下げて掲げること」です。昭和天皇が亡くなったときは、全国で見られたものです。デパートなんか半旗を掲げていました。今回は「北海道戦没者追悼式」のため、学校の三旗を「半旗」にしたそうです。気づきましたか？

## アルバム個人写真撮影

卒業アルバムに掲載する個人の顔写真の撮影日程が決まりました。服装は「Yシャツ+ネクタイ+笑顔」で統一することにしました。9月中の撮影クラスは、まだ略装期間ですが、撮影日にはYシャツネクタイの準備をして下さい。

9/12（木）1・2組    9/26（木）3・4組    10/3（木）5・6組    10/10（木）7組・欠席者

### ☆☆☆ 行事と時間割 ☆☆☆

長月 9月	行事等 ①②は校時を、(1)(2)は回数をあらわします	★時間割を確認しよう						
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
9	月 秋期講習開始 重陽 6時間							
10	火 センター試験志願票提出～20(金)まで 7時間							
11	水 6時間							
12	木 アルバム写真撮影（1・2組） 7時間							
13	金 生徒会役員選挙 十五夜 6時間							
14	土 ベネ駿マーク模試(1) 看護医療模試(2)							
15	日							
16	(月) 敬老の日							

☆ 励まし合って！ 放課後講習、自習

(文責 伊丸岡)